

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 2 月 1 日
事業所名	せんねん村グループホーム矢曾根 まんりょう
事業所番号	2373200472
記入者名	職名 管理 氏名 蜂谷 佐知子
連絡先電話番号	0563-64-0075

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「こころのびのび、からだいきいき、いのちきらきら」を、当ホームの理念とし、「これまでの人生、いろいろあったけれど、ここで暮らした日々が一番良かったよ」そう想って頂けるホームを目指しており、運営推進会議等でホームの取り組みを伝えている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	部署の目標として、毎月のミーティングで確認している。できることまで支援しすぎないように、できることやできないことを見極めることができるよう取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	法人の機関紙を回覧板で町内に回覧して頂いている。また毎月のホーム便りには理念を掲載している。運営推進会議では入居者やご家族、地域へ啓発をしているが、地域住民の方々にまでは理念が浸透していない現状である。	○ 地域の方には少しずつ理解が広がっている。地域との関係づくりは町内会や運営推進会議を通じて築きあげていく中で、理念を地域に伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶や野菜のおすそ分け、近隣商店への買物や回覧板等で気軽に声をかけてもらえるようになってきた。地域の行事にも積極的に参加し、少しずつ付き合いがひろくなってきている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、草取り、掃除、祭礼、消火訓練等に参加することで交流が増えてきている。散歩時には挨拶を心がけ、近隣の商店をなるべく利用するなど、地元の方たちとの交流は少しずつ増えてきている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>外部評価のためだけでなく、自分達の日頃の仕事の振り返りとして、評価を活かしていきたい。改善が必要なものは、個人ですぐに改善できること、チームで改善が必要なことを把握し取り組んでいく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>定期的に勉強会を開催していく必要がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>今後も利用者の暮らしぶりや家族が望む情報など、意見を聞きながらよりよいサービスを目指していく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず、職員の交代があった場合、利用者への説明や引継ぎがスムーズにできるよう心がけている。家族へもホーム便りなどでお伝えし、面会時には直接自己紹介や挨拶をするようにしている。		法人間の異動はやむを得ないが、仕事のやりがいを持ち続けられるホームであり続けていく。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、フォローアップ研修、二年目研修、管理者研修等の研修だけでなく、法人内での他部署体験、利用者体験、自主勉強会など様々な機会を確保している。事業所外での研修の参加を促し、参加者は会議で報告し全体で共有できるようにしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県のグループホーム連絡協議会に属し、管理者は役員をつとめている。県内の他事業所との積極的な交流を図っている。職員には研修参加や他事業所訪問の機会をつくり、質の向上に取り組んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談の機会を設けたり、悩み事を抱えていそうな職員には随時声をかけるようにしている。休憩時間の確保や働きやすい環境を作るように努めている。歓送迎会などの親睦会を開催している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一年を上半期・下半期に分け、各自自己目標を立て向上心を持って働けるようにしている。また、目標の達成状況によって声をかけ、目標が達成できるよう面談やミーティングなどを活用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前にケアマネージャーと連携し、普段の暮らしやぶりや家族の状況など聞く機会を作っている。また家族と本人に見学していただき、関係作りにつとめている。状況によってはお試しでの宿泊も行うこともある。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホーム利用までの経緯を注意深く聞き、どのようにすることがご家族やご本人にとって一番良いのかを考えるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームが提供するサービス内容と現状を伝え、必要に応じ相談を受け付けている。緊急性が高い場合には他事業所への紹介も行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居して頂く前に、ホームに見学に来ていただくようにしている。状況によってはお試し入居や隣接のショートステイでの宿泊利用など、本人が徐々に慣れていけるような心がけている。家族だけでなく友人やこれまでのケアマネージャーが入居してから本人に面会にくるように協力していただいている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と共に生活している中で、人生の先輩として料理や畑仕事など様々な場面で、生活の知恵を利用者から教えていただいている。</p>	<p>今後も常に本人の立場に立って一緒に過ごし、学び、支えあう関係を日常の中で築きあげていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に本人の様子を伝えている。また家で暮らしていた時の本人の様子や介護のコツなどを聞いたり、サービス担当会議の際には家族も本人を支える支援者として家族に接していただけるようになってきている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの暮らしができるだけ継続できるよう、生活歴や家族の思いを確認し、利用者が家族との関係を断ち切ることなく関係が継続できるようにしている。遠方の家族には手紙や写真を送ることで暮らしぶりを伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居する前利用していた、施設での友人や近所の友人などが訪ねにくることもあった。年賀状のやりとりや、友人とカラオケに行くなどこれまでの関係が途切れないよう心がけている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を情報共有し、席の配慮や余暇活動などの面で配慮をしている。利用者の暮らしに邪魔をしない程度に職員が間に入って、互いが支えあう関係作りを目指している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームで看取った利用者の自宅に出向き、お参りをさせていただいたことがあった。近隣の方は近所で出会うこともあるが、積極的に取組んではいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>サービス担当者会議では本人、家族の思いや要望を必ず聞いてている。居室のレイアウトを本人と一緒に考えたり、入浴スタイルや食事の時間など日常生活の中でも、日々の関わりの中から思いや暮らしの要望を確認して検討している。写真を使った本人のライフレビューブックを作成している。</p>	<p>今後も常に本人の立場に立って一緒に過ごし、学び、支えあう関係を日常の中で築きあげていき、一人一人の思いや要望の把握に努めていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居に至る経緯や生活の様子など、ケアマネージャーや家族に確認し、できるだけこれまでに近い暮らしをおくれるよう、ホームに入居しても続けて頂けるようサポートしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>できることややりたいことはできるように、出来ないことはサポートをすることですこしでも出来るようにケアプランを作成している。普段の様子をケアプランにそって記録する事により、利用者の状態把握をしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎のサービス担当者会議では、本人・家族が必ず参加し、担当職員、計画作成担当者、管理者によって話し合いの場がもたれ、センター方式のできること・できないことシートをもとにした介護計画が作成されている。</p>	<p>ケアプランに基づいた介護記録から、職員それぞれの気付きや意見、本人の思いなどを確認し、その人にとってより良く暮らすための介護計画を作成していく。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎のサービス担当者会議、状態が著しく変化した場合に計画の見直しをおこなっている。また月に1度の職員会議では今月の重点ケアが話し合われているが、会議での話し合いをどのように残していくか検討中である。</p>	<p>ケアプランに基づいた介護記録から、職員それぞれの気付きや意見、本人の思いなどを確認し、その人にとってより良く暮らすための介護計画を作成していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録はケアプランをもとに記入している。出勤した職員は、介護記録を必ず記入するようにしており、日報を踏まえ利用者の日々の様子を把握するようにしている。記入する際は、色分けし一目で分かりやすい記録の書き方を目標としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、早期退院の支援や最後まで住み慣れた環境での看取りを実現している。平成19年度のホームでの看取りは3件行った。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	コーラスやハーモニカの演奏、健康体操のボランティアさんが定期的に来所され、利用者は楽しみにしている。日常的には図書館で好きな本を借りることや、公民館での運営推進会議を行うこともしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	看取りなどの重度化になった場合、同法人の栄養士に相談し、少ない力でも飲み込め、見た目にも食欲をそそるような「溫柔食」の配達を依頼している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームの利用待機している方には権利擁護制度を利用している方も見えるため、包括支援センターとの連携を図りながら待機中の支援している。運営推進会議には必ず包括支援センターの職員が参加し、地域との情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康面で気になることは家族にこまめに伝え、本人や家族の要望に応じたかかりつけ医に通院している。通院が困難な方にはホームの協力医から選んで頂き、訪問診療を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療など、ホームの協力医に相談している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が週二回出勤している。出勤日以外の状況は記録や報告にて職員と連携が取れており、状況変化に応じた支援を行っている。		グループホームの看護師だけでなく、協力医の看護師、訪問看護ステーションの看護師との連携を強化し、職員の判断対処の力を高めていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際は、家族と共に病院関係者や医師と話をし、入院生活の適応と早期退院できるよう協力している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、入居時に確認している「せんねん村事前指定書」に沿って本人・家族の要望を聞き、主治医、職員と話し合い方針を共有し決定後、終末期のケアプランを作成している。		質の高い終末期ケアが提供できるよう、日本福祉大学終末期ケア研究会さんと共に指針をより良いものに作成中である。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「せんねん村看取り指針」をもとに日々をどのように暮らしていくかに焦点をあて、ホームができること、家族ができること、協力医ができることなどを話し合い、安心して終末期を迎えられるよう支援している。管理者はこれまでの看取りから、「日本福祉大学終末期ケア研究会」に協力し「質の高い終末期ケア」のあり方について事例報告や研究に貢献している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>今後もプライバシーを損ねるような声かけや対応がないよう、定期的に日々の関わり方を見直していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>本人が主体となって生活できるよう、今後も利用者それぞれのペースにあわせた支援をしていく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>髪型や服装のおしゃれを、化粧やアクセサリー、マニキュア、帽子やスカーフなどそれぞれの利用者と相談しながら行っている。家族と共に本人行きつけの美容院で毛染めをする方、ホームに来る出張理容を利用される方、自己にて散髪される方様々に対応している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食の献立は利用者に意見を聞き季節や気分によって食べる楽しみから、当日に決め職員も一緒に食事をしている。調理は毎日利用者と共に、後片付けは毎日全員が行っている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日晩酌をしている方もいれば、法人の特養で月に2回開かれる居酒屋に夜間通われる方もいる。おやつや飲み物、漬物など本人の希望に応じて用意している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンは常に見直すようにしており、その人に合った支援をしている。紙パンツの利用者を布パンツに変更し、皮膚疾患の軽減やコストの削減に取り組んでいる。		その人にとっての不快が排泄から生じている可能性も大いにあるため、排泄ケアについて今後も職員の意識向上に努めていく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に沿い、毎日入浴する方もいれば1日おきに入浴する方もいる。入浴時間利用者の希望によりおやつ後から夕食後まで様々である。利用者同士、順番を決める、2人で入るなど利用者の要望を尊重している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を毎日の生活の中で、自然と体を動かす機会を増やすことで、適度な疲れから夜間の安眠を図っている。昼食後昼寝をする方も多いが、体の生理機能にあわせ、無理に起こすことはしていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の役割や好きな余暇活動を生活歴や普段のかかわりの中で把握するようにしている。また外に出る機会を心がけ、ホームに閉じこもらない暮らしを目指している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	一人一人の能力に応じて、金銭管理をしていただいている方も多い。また買物や外出時にお金を支払っていただく中で、少しでもお金を所持したり使えるようにできる機会をもち、小口から金銭管理できるよう目指している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	毎日買物での外出機会がある。出来るだけ買物に行く方が偏らないようにしているが、利用者の希望によって偏ってしまうのが現状である。本人の希望によって買物以外に散歩や近隣商店へのお使い、畑や花壇など戸外に出る機会を作っている。		外出支援が偏らないよう、戸外での楽しみを持てるような言葉かけや支援をしていきたい。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	全体のイベントとして企画することもあるが、最近では少人数で外出し馴染みの場所や食事などに行くことが多くなってきた。友人とカラオケ、同級会に参加する、家族と外出するかたも数名いる。		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	本人の希望で自由に電話をされている。毎年家族や知人へ年賀状を送っている。		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	面会に来られた際には利用者にお茶を出していただいたり、リビングや居室など来客者が希望された場所でお話して頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	権利擁護や拘束に関する勉強会はホーム内では開催していないが、法人で研修に出席した職員から全職員に向けてITを使用して情報共有できるようになっている。ホーム内で拘束にあたる行為は今のところ見られていないが、具体的な行為がどのようなことであるのか再度意識することが必要。		身体拘束や権利擁護などについて学ぶ機会を設けていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中かけておらず、いつでも自由に外に出ることが出来る。外に出て行かれる方も多いが、本人の言動からさりげなく一緒に出かける、散歩する、畑仕事をするなど閉じ込めることのないケアを実践している。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は注意が必要な方を把握しており、職員同士声を掛け合いながら居場所の把握をしている。ユニットの状況にあわせて夜勤者の待機場所を変更している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁などは生活の中での必要物品であり、身近においてある。取り扱い時には職員が見守りしている。夜間見守りできず、利用者によっては注意が必要なものは、何が危険なのか考え対応できている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった際には、事故報告書を作成し、原因分析を必ずしている。3日以内に是正を検討し再発防止に努めている。毎月のユニット会議では事故やヒヤリハットの報告を行い、危険予知や事故防止の意識を高めている。万が一事故が生じた場合、適切な判断・行動が出来るようマニュアルの確認、勉強会を開催している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアル整備を行い、全職員が定期的に応急処置の研修に参加しているが、実際の急変時には不安の声がある。そのため毎月ロールプレイ等で手順を確認するように取り組み始めた。		定期的に勉強会を開催し、緊急時にも冷静な判断や対応ができるようにしていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加し、救護訓練や消火訓練など地域の方と共に学んだことを職員に伝達行った。ホームでの避難訓練では利用者と共に消火器の使用方法を学んでいる。運営推進会議では毎回防災について話をしており、今後地震に備えた訓練を行っていききたい。		火災だけでなく、地震を想定した避難訓練の実施をしていく。運営推進会議を通じて地域との相互協力について働きかけていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>薬の目的、用法、用量、副作用が把握できるよう、勉強の機会を作る。早見表を作成するなど、全職員が内容を把握できるようにしていく。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>管理栄養士から献立作成の助言を頂いたり、職員が栄養について勉強できる機会を設けていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外から帰宅した際は、うがいと手洗いをしており、職員は、一介助一手洗いをしている。利用者、職員共にインフルエンザの予防接種をしている。法人内での感染症に関する勉強会には積極的に参加し、参加できない職員は情報共有できるシステムがある。ホーム内での自主勉強会も今年度は多く開催できている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買物に出かけており、新鮮なものを購入し賞味期限を確認している。現在食器やまな板などの消毒方法を見直しておりている。		冷蔵庫やまな板、布巾などの消毒についてマニュアルを再確認し、生活の場としての衛生管理について点検や掃除を確認していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	今年度は新たに玄関スロープにそって花壇を利用者と共に整備した。玄関内には季節に応じた掲示を行っている。玄関脇にはベンチが置いてあり、帰ってきた際に一息つく姿も見られる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂リビング以外にソファを置いて、利用者がその日その時の気分によって居心地良く過ごすことができる空間を確保している。花壇の花を飾ったり、利用者各自が選んだ鉢植えなどを置き、季節感を取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓の配置を工夫し、利用者同士くつろいで楽しそうにお話している姿が見られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ってきて頂いている。絵画や写真、観賞植物などを増やしていくなど、それぞれ利用者が生活しながら、家族と共に相談しながら居心地よい居室作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除の際は換気をし、利用者の状況に応じて窓を開けたり、エアコンの調整で換気や室温の調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やホーム内の家具の配置は利用者の動線を考慮して常に検討している。ホームのリビング前からつながっている外のウッドデッキは中庭として、自由に利用者が出入りできるようになっており、物干しは低く、車椅子の利用者でも毎日外に出れるようになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札は入所後、できるだけ本人に自筆で書いていただき、本人の目線を確認し表札をつけている。カレンダーやトイレの表示などは、利用者と相談しながら掲示している。		入居時と現在ではわかる力が変わっていることを把握し、表札やトイレなどの表示を見直していく。不安や混乱がないようその時の状況にあわせてチームで話し合っていく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇を整備し、農作業や花を育てるなど利用者と共にやっている。ホームのリビング前からつながっている外のウッドデッキは中庭として、自由に利用者が出入りできるようになっており、植物や花を育て、車椅子の利用者でも毎日外に出れるようになっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

大通りから少し道を入った田園の中に私達のグループホームがあります。木材をふんだんに使用したホームの室内・室外には、昔ながらの長屋を感じさせられる面影があり、近隣の家・蔵とも馴染んだ造りになっています。戸外にある菜園や花壇は、利用者のご家族の協力を得て作りました。農家が多いという地域の特色もあり、土いじりは皆さん目をキラキラさせて取り組まれています。運営推進会議では会を重ねるごとに、気軽に意見交換できるようになり、参加者の皆さまから貴重な意見を頂いています。この意見をもとに今年度は、地域との関わりに重点を置き取り組みました。交流として、ボランティアや近隣中学校の職場体験実習の受け入れ、地域バザーへ利用者の作品出展と販売、町内の防災訓練への参加させていただきました。また近隣の方から、畑で取れた新鮮な野菜をおすそ分けして頂いたり、散歩中に声をかけていただいたりと、徐々に地域に受け入れられ支えられていることを実感している毎日です。職員は、利用者が築いてきたなじみの暮らしを継続する為に、日々のケアに取り組んでいます。また、毎月のミーティングや勉強会などには積極的に参加し、利用者主体のケア、チームで支えるケアを実践しています。「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら」せんねん村で過ごした日々が一番良かったよ・・・そう想って頂けるサービスをこれからも目指していきます。